日本新聞製作技術懇話会 広報委員会編集

編集人 辻 裕史 東京都千代田区内幸町 日本プレスセンタービル 8階(〒100-0011) 電話(03)3503-3829 FAX(03)3503-3828 http://www.conpt.jp



CONFERENCE FOR NEWSPAPER PRODUCTION TECHNIQUE JAPAN

VOL.36 No.6 2012.11.1 会報(通巻 216 号)

日本新聞製作技術懇話会会 報(隔月刊)(禁転載)



### 目次

いよいよJANPS開幕			JANPS準	備部会	部会長	矢森	仁		3
GRAPH EXPO 2012	見聞録	(有)メ	ディアテクノ	ス 代表]	取締役	井上	秋男		4
新局長に就任して		-	岩手日報社	取締役制作	作局長	野口	純		7
楽事万歳		北海道新聞社	制作局局次	長兼印刷	本部長	松本	秀敏		8
富士フイルムグロ	1ーバルグラフィ	ックシステムズ	株式会社 新	聞営業部	部長	松浦国	計郎		9
会員社リポート		㈱加貫口-	-ラ製作所	(株)椿本チ	エイン	•••••	•••••		10
			㈱日立製作	所 三菱	製紙(株)	•••••	•••••		11
JANPS2012出展社セミ	ミナースケ	ジュール・	•••••						12
第6回「CONPT セミ	ナーのご案	《内」	•••••		•••••		•••••		15
青森で第65回新聞大会	☆開く		•••••		•••••		•••••		16
IFRA – EXPO2012ツ	アー無事終	とわる	•••••		•••••		•••••		16
新着資料									16
······	~~~~~~~	~~~~~~	~~~~~~	······	~~~~	~~~~~	~~~~	~~~~~	<b>~~</b>
									$\neg$

### ◆ JANPS2012 会期と会場時間 ◆

27日(火) 午前10時~午後5時 午前10時から開会式を行います。

終了後すぐに入場できます。

午後5時30分から「JANPS懇親会」を開催いたします。

28日(水) 午前10時~午後5時 午後5時から「CONPT TOUR再会パーティー」を開催

いたします。

29日(木) 午前10時~午後4時

\*CONPTセミナーは、27日、28日、29日の3日間、午後3時から会場内セミナーブースにて開催いたします。(15ページ参照)

- ●表紙写真提供:「CONPT TOUR2011入選作より」
- ●第一工業・中島悠希氏「ヴェローナ・コロッセオ」
- ●表紙製版:㈱デイリースポーツプレスセンター
- ●組版・印刷:㈱デイリースポーツプレスセンター

# いよいよJANPS開幕

日本の新聞技術の祭典である第21回新聞製作技術展JANPS2012開催がいよいよ3週間後に迫りました。11月27日(火)から29日(木)の3日間の開催です。今回は3年ぶり、第21回の開催となりますが、お蔭様で出展社数は過去最大の60社・団体となりました。場所は従来どおり、東京ビッグサイト東6ホール展示会場で開催いたします。

#### 【新聞社の出展】

今回の新たな展開としての最大の特徴は新聞社の出展です。朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、日経新聞の各紙と日経統合システムの参加協力を得、主催者である日本新聞協会を含めて、合計7社17コマでの出展参加のご賛同が得られました。各新聞社のブースは、中央入り口の展示スペースに配置させていただき、「新聞社通り」と命名致しました。各新聞社の独自技術、あるいはメーカーとのコラボレーションによる新規技術が紹介されます。

#### 【研究レベルの先端技術の紹介】

6つの大学研究室或いは専門学校の参画も得られました。千葉大学大学院融合科学研究科からは、北村研究室、小林・青木・今泉研究室、小関研究室の3研究室が参加、東京工芸大学工学部メデイア画像学科、東京電機大学エルゴノミクスデザイン研究室、日本プリンテイングアカデミーより参加のご賛同を得ました。これら各研究室からは、研究レベルでの先端技術紹介として参画して戴きます。出展場所は「先進技術ゾーン」と名づけ、6コマのブースをサテライト式に配備させて戴きました。人の交流の多い、会場内セミナーブースの横に配置し、将来を担う若い技術者が、

JANPS準備部会部会長 **矢森 仁** 新聞社の方々やメーカーの出展者との積極的な意見交流をされる事を期待しております。

### 【海外からの来場者】

JANPS期間にあわせ、IFRAの日本ツアーも設定しました。従来の日本ツアーは春、「桜開花の時期」でしたが、JANPS開催期間での誘致を行い賛同を得ました。現在、ノルウエー、ザンビア等からツアーの申し込みを受けています。一行は11月27日(火)のJANPS開会式に出席し、展示会を視察されます。この為、海外とのお取引のあるメーカーには英文でのご案内を御願い致しました。日本の新聞社の印刷設備や製紙工場、輪転機メーカー等の視察も組み、来訪者との交流と海外への新聞印刷技術の発信も行います。

#### 【セミナー開催】

又、IANPSでは新聞協会主催の最新技術講 座、「新聞製作講座 | が開催されますが、今回 は展示会場内にも特設セミナー会場を設け、 出展社による「セミナー」も開催いたします。 展示会場に80席を設け、実務者に近い目線で の各種技術の発表の場と位置づけました。13 コマの枠を設定し、募集した結果19社22コマ の申し込みが有りました。会場を「全席使用」 と「2分割使用」として活用枠を拡げ、最大24コ マの設定としました。本会場では「CONPTセ ミナー」として、世界の印刷技術を競う INCQCで栄冠をとられた朝日プリンテックと、 新聞協会賞技術部門を獲得された朝日新聞 社、中日新聞社の特別講演、10月にフランク フルトで開催された「IFRA展視察報告 |を実 施するとともに、公募した各メーカーによる 技術紹介の場としました。

以上JANPS2012は前回開催から3年間の準備期間を戴き、この間新たな施策としての4つの取り組みを進めて参りましたが、お蔭様でこれらを織り込んだ展示会とする事が出来ました。今まで長きに亘って多大なご協力を戴きました、主催者である日本新聞協会、協会所属の新聞社各社、出展にご賛同戴きました学校関係者、そして新聞懇話会の関係者各位他ご支援戴きました皆様にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

あとは、準備万端、盛大に行うのみ。これら新たなる施策の目的はただ一つ、新聞業界の活性化です。今回のJANPS-新聞製作技術展のスローガンは「読む 見る つたえる 今あたらしい新聞技術」です。人類の知的財産である「書き物」を媒体とし、これを「読む」「見る」そして、「つたえる」と言う有用且つ貴重な情報源の伝達、これを効率的且つ効果的に紙面に表現する新聞。この技術の進化を支える新聞製作技術展に是非ご期待ください。

# GRAPH EXP● 2012 見聞録

有限会社メディアテクノス代表取締役 井上 秋男 (JAGAT客員研究員)

3年ぶりに米国へ出向き見聞した。目的は次の三つがあった。 ①シカゴで開催されるアメリカ最大のグラフィック・コミュニケーション展GRAPH EXPO 2012の視察②米国新聞・印刷事情の調査③世界で初めて新聞デジタル印刷機TKS JETLEADER 1500を導入したNewsweb社見学と社長へのインタビュー。

### ■GRAPH EXPO 2012視察

#### 1開催概要

10月7日~10日まで北米最大の展示会場マコーミックプレイス(南館)にて「Print Integrated」をメインテーマに開催された。開催規模は正式に発表されていないが、出展社約460社、出展面積約4万㎡、来場者約2万人と言われている。drupa2012から約5ヵ月経過と米国新聞・印刷産業の厳しい状況から規模縮小も懸念されたが、各社ともdrupaで高い評価を受けた製品群を一堂に出展し、商談も活発化して盛況となった。新聞関係は、NEXPO終了に伴い2010年から会場内に「NEWS PRINT PAVILON」が設けられ、東京機械製作所(TKS)、三菱重工業現地法人など主要べ

ンダーが出展している。また、数多くのセッション、カンファレンス、ユーザーグループ会議が開かれ展示会と同様にぎわった。

#### ②出展状況

▼全体的にdrupa2012の流れを受けてデジタル印刷がメインとなった。目抜き通りには、富士フイルム、キヤノン、コニカミノルタ、リコー、Xerox、HP、Kodak、Agfaなど主要ベンダーが勢揃いし、最新のインクジエットや電子写真方式のデジタル印刷機を出展した。見所は、多種多様な後加工機連携により、書籍、雑誌、マニュアル、カタログ、小冊子など多彩な実印刷により、デジタル印刷の活用範囲の拡大を紹介した。



会場風景

▼新聞デジタル印刷はdrupa2012と違い実 印刷は少なかったが、各社とも最新の取り組 み状況を積極的に紹介した。TKSは、ビデ オによりTKS JETREADER 1500の特徴や伊 賀テクノセンターでのウォール・ストリート・ ジャーナルアジア版の実印刷を紹介。また、 導入したNewsweb社での印刷サンプルを来 場者に配布してQ&Aも相次いだ。キヤノン (Oce)は、来年第2Qにフランス中部リモージ ユにある新聞・商業印刷会社Rivet Press Edition社 にてOce JetStream4300とmanroland web system製の後加工機VPF211を2ラ イン導入して新聞デジタル印刷開始を紹介し た。KBAは「Rota Jet76」を来年春に発売と新 聞印刷向けソフトと後加工機を開発中と発表 し、印刷サンプルも展示した。スイスの Graph-TecはMono-Qubeを実演し「No Click ビジネスモデル」を説明した。HPとKodakは 新聞印刷サンプルを展示して取り組みを紹介 した。▼新聞オフセット輪転機の実機展示は なく、枚葉オフセット印刷機も2社が実演し たのみで、印刷のパラダイムシフトを改めて 認識した。関係者に確認した所、米国ではタ ブレット端末やスマートフォンなどデジタル デバイスの普及拡大とFacebookなどSNSの 進展により新聞はじめ書籍、雑誌、カタログ などの情報伝達用印刷物が減少している。ま た、新聞・商業印刷会社はオフセット印刷機 を多数保有し、更に競合により利益率も低下 して設備更新も出来ないのが現状のようだ。 世界的なコンサル会社InfoTrendsが開催した Briefing at Graph Expoでは、「技術は多様化 し、2017年頃にはリセッションの可能性もあ る」と紹介し、オフセットとデジタル印刷の 行方に注目が集まっている。▼デジタル印刷 機と同じく実演が多かったのが後加工機。ホ リゾン、Duplo、HUNKELER、Lasermaxroll、 MÜLLERMARTINI、MBOなどがデジタル印 刷機と連携して給紙、断裁、折り、製本、封 入封緘などを実演し印刷媒体の付加価値向上

への取り組みを紹介した。▼もう一つ付加価 値向上への展開として「印刷とITとの連携ソ リューション」が数多く紹介され米国の底力 を示した。コニカミノルタやリコーなど日本 勢も出展し注目を集めた。コニカミノルタは 「EngageIT XMedia」を出展しダイレクトメ ール、電子メール、ソーシャルメディア、QR コードによるマルチチャネル・マーケティング を実演した。リコーは「Clickable Paper」を初 出展し、新聞、雑誌、ダイレクトメール、書籍、 パンフレットに印刷されたコンテンツをタブ レット端末で撮影すると該当サイトにアクセ スして各種情報を表示するインタラクティブ サービスを紹介した。これらの媒体価値向上 を強化拡大するためにはプリントマーケッテ ィングが重要になるとして、会場内の「MAR-KETING PAVILION |やセミナー・カンファ レンスでは製品別戦略やビジネスモデル構築 の必要性と取り組み事例などの講演・紹介が 相次いだ。

以上の様に、GRAPH EXPO 2012では、デジタル印刷機を中核に後加工機とITを連携させ、プリントマーケッティングを活用する新たなビジネスモデルを示した。



見学会での実演

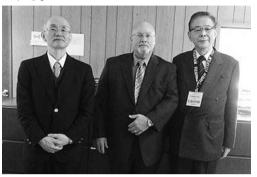
### ■ Newsweb社見学会と社長インタビュー

同社は、7月に世界初のTKS JETLEADER 1500の導入を発表し、WAN-IFRAはじめ業界紙、ネットにも数多く紹介され、わが国や海外でも注目を集めた。筆者も新聞デジタル印刷の追っかけマンとして、見学と導入責

任者Rodd Winscott印刷部門社長に話を聞き たいと思い、その旨をTKSに伝えた所、10 月9日の見学会参加とインタビューが可能と なった。▼見学会は、GRAPH EXPO主催側 の要求により午前10時迄に終了することで、 午前7時30分に展示会場をバスで出発。欧米、 中東、アジアの新聞社、新聞印刷会社及び業 界関係者と一緒にシカゴ市内のNewsweb社 に8時に到着。すぐにTKS USAメンバーによ り会社概要とTKS IETLEADER 1500の仕様 説明を行い実印刷に移行。492feet/分(150m/ 分)でブロードサイズのウォール・ストリー ト・ジャーナル(4セクション、48ページ)と 世界日報(4セクション、40ページ)を相次い で印刷し参加者に即配布。初めて視察する人 が多く、速度、品質、新聞折りまでの一貫処 理に驚き、実印刷後、質問・確認や情報交換 も相次ぎ好評となった。

▼Rodd Winscott印刷部門社長へのインタ ビューは見学会に参加していたTKS木村さ んに通訳をお願いし約1時間行った。要旨は 次の通り。<会社概要>同社は1971年に新聞、 商業印刷会社として設立。シカゴ地域の特色 を活かして、多国語新聞を約30種類、その他、 コミュニティーペーパー、大学・高校新聞、 企業・イベント新聞など1週間に約125タイト ルの新聞を合計100万部印刷。1タイトルは 1000部~15万部。年間の紙消費量は約7000ト ン。印刷機はGOSS製Communityを1998年に 導入。**<新聞デジタル印刷機>**デジタル印刷 機は2005年頃から検討していたが、なかなか 見つからず、drupa2012でTKSが後加工まで 一貫した実印刷を見て導入を決定。TKSは オフセット印刷機メーカーであることも選定 理由の一つ。現在、様々なビジネスプランを 策定中。現行のオフセット印刷をそのまま移 行するのではなく、デジタル印刷の特徴であ る[オンデマンド、バリアブル、ゾーニング、 パーソナル」を活用して、顧客へ最適なメリ

ットを提供したい。コスト面も様々なケース で検討している。オフセット印刷はなくなら ず、デジタル印刷と融合し、両者の特徴を活 かしたハイブリッド印刷に向かっていくと思 われる。



Winscott社長(中) TKS芝社長(右) 筆者(左) 最後に展示会場、見学会でご支援頂いた TKSはじめ出展関係者に誌上を借りて謝辞を 申し上げたい。

#### ■ご参考(新聞デジタル印刷の現状)

最近、関係者から「今年は、我が国の新聞 デジタル印刷元年」と聞くことが多い。背景 として①4月16日から東京機械製作所(TKS) 伊賀テクノセンターで、我が国初の新聞デジ タル印刷が、「ウォール・ストリートジャー ナル(アジア版) |の本番印刷により始まった。 ②5月のdrupa2012では、TKSはじめ主要メ ーカーからロール式インクジエットデジタル 印刷機による新聞デジタル印刷の実演が相次 ぎ、我が国からも新聞社・新聞印刷関係者が 多数視察した。③今年秋から来年初めにかけ て欧米の新聞・商業印刷会社にてdrupa2012 の実演機器を導入して新聞デジタル印刷を本 番運用。④我が国では、ベンダーによる「セ ミナー、実演、テスト印刷」と新聞社・新聞 印刷会社の「ビジネスモデル策定、コスト試 算、課題検討 などが進展。⑤11月に東京ビ ッグサイトで開催される新聞製作技術展 JANPS2012では最新の新聞デジタル印刷機 の実演も予定され期待が高まっている。

# 新局長に就任して

### 人間らしい職場に

岩手日報社 取締役制作局長

野口 純

透き通った海に石灰岩 の奇岩が見事なコントラストを描き、ウミネコが にぎやかに飛び交う。陸 中海岸国立公園の名勝地 として知られる「浄土ヶ浜」のすぐ隣。「蛸の浜」



が私の子どものころの遊び場だった。三陸海 岸のほぼ中央に位置する岩手県宮古市で生ま れ、中学生まで過ごした。

2011年3月11日。東日本大震災は故郷を丸のみにし、海に近い私の生家もまた跡形なく流失した。一線記者時代であれば、すぐにでも現地に飛んで行ったのだろうが、立場上(当時常勤監査役)そうもいかず、停電の社内で震災対応に追われた。当時、自家電源を持たなかったわが社は他社に印刷をお願いするしかなく、「3.11」の時は東奥日報社に、「4.7」の余震の時は秋田魁新報社に助けてもらった。応援協定で印刷された新聞を被災者たちが食い入るように読んでいた、との報告に、熱いものが込み上げてきた。

\* \* \*

岩手県はとにかく広い。かつて父親の葬儀に東京から宮古市まで駆けつけてくれた方が「いやあ、驚きました。新幹線で盛岡までの時間(約2時間半)と盛岡から宮古までのバスの時間(約2時間)が、ほぼお同じですものね」と目を丸くした。こんな話は序の口。震災で大津波被害を受けた岩手県の沿岸部は、南の陸前高田市から北の洋野町まで車でゆうに5時間近くかかる。同じ県でありながら、地域によって言葉も違えば生活習慣も異なる。

制作局長になって局員に訴えたことは2つある。1つは「効率のよい作業と時間厳守」。もう1つは「人間らしい職場環境」である。「時間厳守」は広大な県土を抱えた岩手県にあっては当然のことである。だから私が毎日気になるのは、印刷開始の時間と輪転作業の状態。スムーズにいった日は「よし」、トラブルのあった日は「うーん」と単純である。

報道部の硬派デスクをやっていたころは「早く書け」と時間にうるさく、若い記者からはかなり反感を買った。あまりにうるさいのでストライキを企てようとした連中もいたらしい。さすがに今はそれほどではないが、時間にうるさいことには変わりがない。

\* \* \*

「人間らしい職場環境」は制作局に限らず全社的な課題である。労務部長を長くやった経験から、メンタルヘルスの重要性を痛感していた。パソコンや輪転機に朝から晩まで向かっている制作局は、どうしても人と人との会話、対話が少なくなる。どうやって精神的な安定をつくり出すか、緩急をどうつけさせるかが問題でもある。あっちの職場に行っては「これは何の機械?」、こっちの職場に来ては「これは、どうするの?」とウロウロしている。局員たちにとっては、「たまったものではない」のかもしれないが、いまだに続けている。

職場が本社と制作センターに分かれているため、週1回の部長会は交互に開催場所を代えることにした。印刷、発送職場の面々は言葉にこそ出さないが、疎外感を持っていると聞いていた。少しでも一体感を持てるように、との思いからである。

「できるだけ外に出なさい」と局員を外部の会議や研修には極力出すようにしたいと考えている。いろいろな人と巡り合い、たくさんのことを話し合ってほしい。喜怒哀楽がはっきりしているというか、笑顔がさわやかな局員を1人でも増やすのが夢である。

# 楽事万歳

### ランニング 山あり谷あり

北海道新聞社 制作局局次長兼印刷本部長 **松本 秀敏** 

「それって何?」。居酒屋で技術部の同僚と 歓談していて「デュアスロン」という言葉を耳 にした時の私の反応だ。ランニングと自転車 を組み合わせた競技の大会が旭川市近郊の町 で数年前に始まり、旭川支社工場の部員たち が今年も参加するという情報を聞きつけた技 術部員が自分も出たいと考えた。ところがこ の大会は3人一組のチーム戦で一人がラン3キ ロ+自転車20キロ+ラン3キロをこなし、これ を3人が繋いで成績とするもの。3人目が見つ かず誰かいないだろうかと切り出したのを聞 いた私は酔った勢いで「誰もいなければ俺が出 てやるわ」と口が滑った。13年前、44歳の時だ。

草野球をやっていた父親の影響で私は子供のころから野球やスキーなどをやっていた。 大学では硬式テニス部に入部する積りだったが、なぜかテニスコートの手前にあった武道場に4年間通うことになった。武道の稽古は厳しく、裸足でのランニングが日課だったので、4年間で体力だけには自信がついた。

#### \* \* \*

入社時、たまたまテニス同好会に勧誘されて念願のテニスプレーヤーとなり、すっかりテニスに嵌っていった。週末プレーヤーではあったが、体は動かしていたので、練習すれば「デュアスロン」は何とかなるだろうと思ったものの、腹の周りに脂肪も蓄積してきていたので、早朝ランニングと借りた自転車で工場までの7キロを通勤するトレーニングを2ヶ月ほど続けて本番に臨んだ。

第3走者がゴールするときは3人が手を繋ぎ 横一列でテープを切った。成績は関係ない。 一緒に頑張った喜びがこみ上げた。3人はこれ がすっかり病みつきになり、各自がランニン グや自転車にのめり込んだ。来年はもっと上位を目指すのだ-と。

本格的に走り始めたのには別の動機もあった。私の子供達は親の影響でテニスを始めジュニアの試合に出ていたが、それなりの成績を残せる実力がついてくると親のアドバイスを聞かなくなり、「自分も試合に出てみればわかるよ」などと立派な口をきくようになってきたのだ。元来子供は親の背中を見て育つものと思っていた私は「ならば自分も試合に出てやろう」と考え、子供達と同じ土俵に上がるためシングルスの試合に出ることにした。「手(テ)ニスは足ニス」と言われる。まず体力、脚力だ。走ろう。レースに出るぞ一。

主に10キロとハーフマラソンに出走。幸いにも走るたびに記録は伸びた。将来のフルマラソン出走が目標になり、好成績を求めて一段と練習に力が入っていった。

#### \* \* \*

ところが、50歳手前から故障がちになった。 体育会系を自認し、何の根拠もなく自分の体 は壊れないと信じていた。準備運動も整理体 操も十分な時間を掛けず、疲れが回復すれば (時には疲れを感じていても)ひたすら走った。 それが限界に達し足や腰に"疲労破壊"が起き た。トレーニングができないとストレスが溜 まる。鬱憤晴らしに庇いながら運動すると他 の箇所が異状をきたし、悪循環でますますストレスとなった。

もうダメだ。意識の転換しかない。腹を括ろう。思い切って休養した。単身赴任期間中だったので、その間に食材の効能や調理方法、運動と食事とケガの関係などに関する本を読み漁り、体のメンテナンスについて考えた。

休養によって故障は徐々に回復し食生活も変わった。今は「毎日走らなきゃ」という自縄自縛から解放され、負荷と休養のバランスを意識しながらゆったりとフルマラソンに挑む準備をしている。人生先は長い。体を労りながら走り、ラケットも握り続けようと思う。

### 見沼たんぼ

富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社 新聞営業部 部長

松浦 国治郎

東京都心から20~30km、さいたま市の旧浦和から旧大宮、旧岩槻にまたがり、巾5km、南北14km、約1260haという広大な面積の空き地がある。たんぽや畑、雑木林、見沼



代用水によってつくられる田園風景で、生き ものを育む豊かな自然が残る緑地帯が見沼た んぽである。

浦和駅、大宮駅から数キロの住宅街の一角 にゴルフ場20か所以上に相当する空き地が調 整区域として開発されずに残されている。

我が家は、この見沼田んぽの南側の入口に あたる東浦和にあるが、この場所を選んだ理 由が、この広い緑地帯に近い事だ。

家から数分歩くと、見沼たんぽの西縁に着く。そこから先はこつ然とだだっ広い空間が広がり、小川と用水路と湿地帯、畑と公園、そして雑木林と続いていく。

\* \* \*

そんな中を休日に歩きまわるのが私の健康 法で、ストレス解消と、運動不足解消に大い に役立ってくれている。何も考えずに歩いて いると、四季おりおりの花が咲いている事に 気づき、季節を感じる事が出来る。

春には数キロに渡る桜のトンネルが出来、 あぜ道にはスミレが咲き誇る。秋には川縁に 曼珠沙華が群生する。今年の曼珠沙華は、暑 さのせいか例年のお彼岸時期より10日ほど遅 れて盛りになっていた。

休日の朝になるとたくさんの人が駅からおりて来て、ハイキングやウォーキングに出発していく。最近の傾向として、2本のストックを両腕に持ちデイパックを背負った本格的

なウォーキングスタイルの元気な年配者の方が多くなってきた。

借り農園による、野菜作りも盛んだ。以前、家内と見沼田んぽの一区画を借りて家庭菜園を作っていた。10坪程の小さい土地にトマトやキュウリ、ピーマン、茄子、ジャガイモ、ねぎなどが収穫でき、新鮮な野菜を季節ごとに美味しく食べるのが楽しみだ。緑地維持の為なのか、借地料は無料で盆暮れに地主さんにお中元とお歳暮を届けるだけで良い。一応賃借の契約書を地主さんと交わすのだが、我が家は小作人として、土地を耕すと記載されており、押印するのには少々抵抗があった(笑)。

7年前の転勤を機に中断していたが、また 始めようと思う。美味しい野菜が採れるだけ でなく、夫婦の会話が増える。

\* \* \*

NPO見沼ホタル保存会という組織が、見沼にホタルの棲める環境を作り、幼虫の放流、飼育、観賞会を開いている。梅雨の終わり頃、飼育したホタルが飛ぶ所を見学できる。自然にホタルが飛ぶようになるのが楽しみだ。

歴史をさかのぼると、徳川吉宗により享保12年(1727年)に干拓され、見沼たんぽが生まれた。見沼代用水は芝川(荒川支流)より約3m標高が高いため、パナマ運河などと同様に「閘門」方式で水位を調節し、物資運搬の船の通過が可能となった。この歴史的にも貴重な通船掘によって、収獲米が芝川によって江戸に運搬され、また江戸からの物資も届けられたらしい。

1950年代の高度経済成長期をむかえ、住宅開発の圧力が高くなったが、遊水機能が注目され、昭和40年(1965年)に宅地化は認めないとする「見沼三原則」が制定され、開発抑制策が講じられ現在に至っている。

せっかく身近にある見沼たんぽだが、近く の歩きまわれる一角しか知らずにいた。来週 から、自転車にでも乗って、もっと奥まで探 索を開始することにしよう!

# あくなき「変革」と「挑戦」で ものづくり

弊社は明治32年(1899年)に創業し、おかげ さまで114周年を迎えることができました。

大正12年(1923年)に弊社が日本初のゴムローラ(SK式ゴムローラ)を生み出して以来、ゴムローラの先駆者として一世紀以上にわたり蓄積してきたノウハウで、多種多様なお客様のニーズにお応えしてまいりました。

近年では、液晶ディスプレイ用の製造現場で使用されるゴムローラなど、これまでになかった程の高い精度や品質で、かつ安価である事が顧客要求として求められてきています。さらに環境への配慮、作業効率の向上、高機能性など、ますます多様化、高度化する顧客要求に、的確にお応えしていくのがこれ

からの使命だと考えております。

また弊社は平成23年11月、大阪府の「大阪ものづくり企業優良企業賞2011」で"最優秀企業賞"を受賞いたしました。これもひとえに皆様方のご厚情ご支援の賜物と感謝申し上げる次第でございます。これからますます本格化する国際競争社会の中で、変化を恐れることなく、あくなき「変革」と「挑戦」でものづくりを続けてまいる所存です。

今後とも益々のご愛顧をよろしくお願い致 します。

#### ◎主な新聞用製品・商品のご紹介

- ・版エッジキズ対策用ローラ[F55]
- ・大豆油インキ対応インキローラ[ΣSOY]
- ・ニップ調整不要水ローラ[NPW50]
- ・ブランケット洗浄布[ワイパロン]



### KATSURA (株)加貫ローラ製作所

# 搬送設備の導入だけでなく、 維持・更新にいたるまで、 つばきがご支援します

全国の新聞社様に対し、椿本チエインは、 巻取紙搬送、および梱包新聞の仕分分野において、各種の搬送設備をご提供してきました。

社会全体における環境意識の高まりから、 搬送設備にもエコロジーさが求められるよう になっています。椿本チエインは「エコロジー&エコノミー」を旗印に、設備の軽量化・ 小型化による環境負荷低減に取り組んでいま す。

給紙設備については、従来よりも3割以上 軽く小さいAGVを開発し、10件のお客様に 合計84台ご採用いただきました。また発送仕 分設備については、従来に比べて部品点数を 4割減らし、電力消費量を13%節約したリニソートR-Hを開発しています。

加えて、稼働後も安心して設備をご使用いただくため、メンテナンスの各種サービスパックをご用意し、24時間オンコールサービスとともに、多くのお客様にご利用いただいています。さらに、設備更新についても、既設工場の稼働を止めずに切替えを行う休刊日更新工事を行っています。給紙設備については20件、発送仕分設備については7件手がけさせていただきました。

今後も椿本チエインは、新技術・新製品・ 新サービスの開発に努め、新聞社様に信頼さ れるパートナーであり続けたいと思っており ます。

## 株式会社椿本チエイン

# 《セキュリティ確保への取り組み》

日立グループでは業務におけるセキュリティ確保のため、様々な技術を開発しグループ内で適用している他に、セキュリティソリューションとしてもご提供しています。その中から3つをご紹介いたします。

#### ■指静脈認証

身体を網の目のように走る複雑な静脈のパターンを用いて本人確認を実施。身体の特長で本人確認を行う「生体認証」の中でも信頼性の高い技術で、入退管理システムなどに使われています。

#### ■シンクライアント

企業にとって最重要課題のひとつである情報漏えい対策。ハードディスクなどの外部記憶装置を持たず、サーバに集約されたデータ

を遠隔操作するための画面表示に特化した端末「シンクライアント」が有効ですが、端末の更新には費用も時間もかかります。『PocketClient』ならUSBメモリに搭載したOSを起動するだけで低コストで既存のパソコンをシンクライアント化することができます。

#### ■不正持込パソコン排除

企業における情報漏えいの原因の一つとして外部からのパソコン持ち込みによる社内ネットワークへの不正侵入があります。この対策として既設ネットワークに『S.COATBOX』を接続することにより監視を行い、不正持ち込みパソコンを検出した場合はネットワークから排除することができます。

以上、簡単にご紹介しましたが、関心のある方は是非日立グループのホームページをご 覧ください。

### HITACHI

Inspire the Next

# ハイグレード&情報メディアの三菱製紙

三菱製紙は1898年の創業以来、技術の力で 社会に貢献することをかかげ、次代のニーズ を的確にとらえた付加価値の高い商品を開発 提供し、出版・印刷・写真などによる情報文 化の発展に寄与してまいりました。現在は、 デジタル情報社会の進展に伴い、引き続き開 発主導型メーカーとして「ハイグレード&情 報メディアの三菱製紙」を目指しております。

オフセット印刷等に対応する印刷用紙、印刷製版材料・システムのみならず、感圧、感熱、電子写真、銀塩写真、インクジェットと始ど全ての記録方式に対応するメディアの製造販売を手がけ、併せて、高機能フィルターなどの機能性材料も戦列に加える事業展開を行っています。近年、温室効果ガス排出等の地球環境問題への対応が重要性を増すなか、

## ㈱日立製作所

当社は、森林・紙類生産・エネルギーの相互 調和と循環を通して、地球環境保全に取り組 んでおります。

新聞分野には、2003年に新聞サーマルCTP版PD-Newsを発売し参入させて頂きました。そのPD-Newsも、昨年、お客様のご要望にお応えし、より一層の品質安定性や信頼性を向上させるべく、包装仕様改良による環境への配慮、現像液交換寿命の延長によるコストパフォーマンスの向上、清掃時の作業効率向上などを盛り込んだバージョンアップを行いました。

今年7月に本社及びグループ6社は、国技館や江戸東京博物館がある両国に移転し新たな歩みを始めました。これからも新聞印刷業界をはじめ印刷業界に貢献していけるよう努めてまいります。

# 三菱製紙株式会社

## JANPS2012 出展社セミナー スケジュール

出展社による「JANPS会場内セミナー」のスケジュールは、以下の通りです。 セミナーに関するお問い合わせ並びにお申し込み方法は、セミナー主催者にご連絡下さい。 各セミナーのお問い合わせ先は、JANPSホームページ(http://www.pressnet.or.jp/janps)をご覧下さい。なお、★印のセミナーは、事前登録制となっています。

### ◇ 11月27日(火)

時	間	セミナー開催社並びにテーマ	
11:30~12:15	① <b>モリサワ</b> 「紙だけではなくさまざまな媒体に広がるフォントの利用」 問合先:03-3267-1223 E-mail:sendenl@morisawa.co.jp		
	② <b>★富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ</b> 「新聞印刷刷版への取り組みについて~高品質・安定供給・環境対応~」 問合先:03-6419-0421		
12:30~13:15	① <b>富士通</b> 「画像品質と環境貢献」		
	② <b>コダック</b> 「既に世界で実用化スタート。新聞印刷におけるインクジェット技術の応用」		
13:30~14:15	① <b>★日経統合システム</b> 「緊急時の紙面制作を考える」 〜中日新聞社に見るIDCを活用したBCP対策事例〜 問合先:03-5690-1980		
	②★日本アグフア・ゲバルト 「アグフア現像レス刷版システム長野日報社の新たな挑戦と戦略」 講師:長野日報社 常務取締役 印刷センター長 守屋正二様 問合先:03-6420-2010		
15:00~	15:45	★日本新聞製作技術懇話会主催 「CONPTセミナー」	
16:00~	16:45	日本電気 「カラー画像処理に関するNECの要素技術開発の取り組みについて」	

<sup>\*15:00</sup>からの「CONPTセミナー」より、定員80名の会場になります。なお、テーマは一部変更となる場合があります。

## ◇ 11月28日(水)

時 間	セミナー開催社並びにテーマ
10:30~11:15	①サカタインクス 「高精細印刷における高濃度インキ化の実現」
	5 ② <b>ビジュアル・プロセッシング・ジャパン</b> 「VPJ が提案する次世代新聞メディアに向けたエンタープライズコンテンツマネ ジメント〜紙・Web・アプリの編集製作へ向けたグローバルITソリューション〜」
11:30~12:15	① <b>産経新聞社</b> 「伝わる新聞とは〜学習院 EX 制作をとおして〜」(学習院大学)
	5 ②プロスパークリエイティブ 「世界初、数値色管理の新世代ソフトプルーフを実現した『カラーブレイン』 絵柄測色と色調整。単独・共同・緊急時運用でも活用。NSAC 対応」
12:30~13:15	① <b>岡本化学工業</b> 「DTN-1OneStepCTP について」
	② <b>ゴスグラフィックシステムズジャパン</b> 「カラーライナー CPS」
14:00~14:4	5 <b>東京機械製作所</b> 「輪転機延命化のための東京機械からのご提案」
15:00~15:4	★日本新聞製作技術懇話会主催 「CONPT セミナー」
16:00~16:4	コニカミノルタビジネスソリューションズ 「BLUEEARTH の新聞運用における共同開発」 講師:株式会社朝日プリンテック 技術・システム担当兼 技術センターマネジャー 村瀬岳彦様

<sup>\*14:00</sup>からの「東京機械製作所セミナー」より、定員80名の会場になります。なお、テーマは一部変更となる場合があります。

### ◇ 11月29日(木)

時 間	セミナー開催社並びにテーマ
10:30~11:15	①ビジュアル・プロセッシング・ジャパン 「VPJ が提案する次世代新聞メディアに向けたエンタープライズコンテンツマネジメント〜紙・Web・アプリの編集製作へ向けたグローバルIT ソリューション〜」
11:30~12:15	① <b>産経新聞社</b> 「大学生が考える新聞の未来」(國學院大學)
	②サカタインクス 「高精細印刷における高濃度インキ化の実現」
12:30~13:15	① <b>イワタ</b> 「イワタ新聞製作プラグインセミナー ~ InDesign による新聞制作を支援~」
	② DIC グラフィックス 「高濃度インキ「PROUD」」
13:30~14:15	① <b>インテック</b> 「新聞業界におけるデータセンターの活用について 〜安全・安心な IT インフラソリューション〜」
	② <b>金陽社</b> 「印刷現場のトラブル解決(ゴムロール・ゴムブランケットからのアプローチ)」
15:00~15:45	★日本新聞製作技術懇話会主催 「CONPT セミナー」

<sup>\*15:00</sup>からの「CONPTセミナー」より、定員80名の会場になります。なお、テーマは一部変更となる場合があります。

### 第6回「CONPT セミナーのご案内」

新聞懇話会主催の第6回CONPTセミナーのテーマ並びに講師の方が以下の通り決まりました。 多くの方のご参加をお待ちしております。

### 1. スケジュール

### 11月27日(火) 午後3時 ~ 午後3時45分

テーマ:「INCQC~世界への挑戦~」

講 師:株式会社朝日プリンテック 技術センター サブマネジャー

田代 高輝 氏

株式会社朝日プリンテック 堺工場 サブマネジャー

柏原 努氏

### 11月28日(水) 午後3時 ~ 午後3時45分

テーマ:「新聞協会賞・技術部門を受賞して」

(競争と協調の時代へ~カラープルーフ相互利用)

講 師:朝日新聞社 製作本部システムセクション サブマネジャー

町田 温氏

朝日新聞社 製作本部システムセクション コントローラ

瀬戸口 修氏

中日新聞社名古屋本社 技術局印刷技術部部次長

佐藤 博之氏

中日新聞東京本社 技術局報道システム部 荒島 昭靖 氏

### 11月29日(木) 午後3時 ~ 午後3時45分

テーマ:「World Publishing Expo視察報告」

講師:株式会インテック NSG事業部メディアソリューションセンター営業部長 林 克美 氏

- 2. 場 所 東6展示ホール内・セミナーブース
- **3. 定** 員 80名(定員になり次第締め切ります。)
- 4. 参 加 費 無料

レジュメは、事前にホームページ上にウェブアップいたします。各自印刷してご持参下さい。 なお、当日も資料は用意致します。但し有料での配布になりますのでご了承ください。

5. 申 込 先 日本新聞製作技術懇話会

TEL: 03 - 3503 - 3829, FAX: 03 - 3503 - 3828, E-mail: janps@conpt.jp

## 青森で第65回新聞大会開く

青森県で初めてとなる新聞大会は、10月16日(火)午後青森市内で開催された。東奥日報社がホストとなり全国の新聞・放送界から510名が参加、新聞の進むべき道を探った。今年の大会議論は、8月に成立した消費税増税に新聞界がどう対応するかに集中した感があり、中央紙、ブロック紙、地方紙を問わず苦慮する姿が浮き彫りになった。

秋山協会長は挨拶のなかで、新聞の評価を 高めていくことによって軽減税率の適用を強 く求めていこうと主張した。近年の新聞界が 「協調と競争」の枠組みが定着しつつあるとの 認識を示し、原材料の確保、印刷や輸送面で の協力体制をいっそう進める考えを述べた。 今年の協会賞技術部門は朝日新聞と中日新聞 の「カラープルーフの相互利用」で、両社の受 賞者は社の垣根を越えたプロジェクトが今後 も進んでいくと声をそろえた。

新聞経営者による研究座談会のテーマは「消費税と新聞」となり意見を述べ合った。「最悪の事態を想定しているが、14年に8%になれば価格転嫁をせざるをえない。100円以上の負担増を本社と販売店でどう分担するか(読売)」「購読減にどう対応するかだが、販売価格競争が起きるだろう(中日)」「地方は苦しく絶対に軽減税率を(新潟日報・東奥日報)」「欧州の例に学び軽減税率適用に向け制度設計をしっかりやるべき(毎日)」など。

デジタル媒体への各社の方針も明らかにされ、「当面購読者に限定したサービスでやっている。ブランド力を鍛えて紙に軸足を置いていく(読売)」「将来のため今のうちに投資している『紙もデジタルも』だ。都市部の夕刊減のオプションとしてのデジタルというのもある(朝日)」「デジタルは利益が上がらない。これ以上の開発は停止している(東奥日報)」「経済メディアとして媒体多様化への足がかりとしており、紙と電子のセットで現在23部

強だが100万部などとは描けない(日経)。

締めくくり発言の中で、道新は「紙面では 競争してもシステム、印刷、発送、配達で協 調を進めたい。北海道が先駆けて各社協調の 場になるのでは」と述べた。

## IFRA-EXPO2012ツアー無事終わる

今年から「World Publishing Expo」に名称が変わったIFRA-EXPOへのCONPTのツアーは、10月28日(日)にフランクフルトに向け成田を出発、11月2日(金)に帰国した。一行は新聞社・協会8名、会員社8名の陣容で、EXPO視察のほかドイツの新鋭印刷工場・DRM社(フランクフルト)、大手紙の南ドイツ新聞本社・工場、デジタル印刷機に力を入れるオセ社(以上ミュンヘン)を見学した。

EXPO会場ではCONPTのためのセミナーがあり、世界の新聞製作事情についてIFRAのCEO代理ワーフル氏らから講義を受けた。ラテンアメリカ新聞技術協会との合同会議も計画されていたが、残念ながら先方の滞在スケジュールが変更になり実現しなかった。

今回のEXPOの特徴や各社視察の詳細は、 JANPS最終目の11月29日(木)、午後3時から 会場内セミナーブースでインテック林克美氏 が報告する予定。(事務局)

### 新着資料

### (国内)

- \*日本新聞協会"日本の新聞2012"
  - "新聞技術" No.221
  - "NIEニュース"第67~68号、
  - "新聞広告報"748~749号
- \*富士フイルムグラフィックシステムズ "FGひろば" Vol.152
- \*日本IBM"無限大"No.131
- \*三菱重工業"三菱重工グラフ"168~169 (海外)
- \*WAN-IFRA "IFRA Magazine" 7 ~ 8月号